

行政調査報告書「市民文教常任委員会」

平成27年7月15日（水）～7月17日（金）

■信州大学教育学部附属長野中学校（長野県長野市）

『ICTを活用した指導方法の開発・実践の取り組みについて』

長野中学校では、ICT環境・機器として、校内無線LAN、iPad60台（生徒用40台、教師用20台）、50インチ液晶テレビ、書画カメラを各教室に整備した。授業風景を参観したが、音楽と体育では、iPadをグループで使った作曲体験、マット運動のビデオ撮影による検証に活用し、また、教室では、50インチテレビを黒板の補助的に使い、板書では考えられない展開の速さで授業が進められていた。課題は、教える側の機器に対応した指導力向上と、ICT機器のアップグレードなどの管理で、お金と時間もかかるということだが、ICT教育は、今まで築きあげてきた教育とのハイブリッドであり、あくまでツールとして上手く使っていくことだと感じた。



■東京都武蔵野市『ひと・まち・情報創造館「武蔵野プレイス」について』



平成23年7月にJR武蔵境駅前に市内3館目の図書館として地上4階・地下3階で図書館機能に加え、生涯学習、市民活動、青少年活動の支援機能を融合し、図書館面積3,324㎡、施設全体で9,810㎡として開館した「武蔵野プレイス」を訪問した。来館者は、開館以来右肩上がりですピーター

も多く、昨年度は164万4千人余。武蔵野市の財政健全度は全国総合1位。施設は駅前徒歩1分の立地の良さで、安城市と比較しても駅圏域人口、乗降客数も6.2倍と桁外れに多く、課題は、立地状況ゆえ市外の利用者と武蔵野市民との差別化、棲み分けは困難とのことだった。



■山形県米沢市『児童会館・プラネタリウムについて』



昭和56年に設置された安城市のプラネタリウムも、30年以上が経過し大きな故障への対応が困難となり、機器本体と付属設備のリニューアルオープンが平成30年に予定されている。同様に今年5月に30年ぶりの施設の改修を行った米沢市児童館のプラネタリウムを調査した。デジタル併用方式の新しい投影機は、コンパクトで威圧感もなく、きれいな星空と音響を提供し、座席も幅広に更新され、市内中学校、高校の吹奏楽部とプラネタリウムのコラボコンサートを実施しているとのこと。児童、生徒の発表の場として、とても夢があると感じた。

